



ファミリー・サポート・センターの進捗は？

町 長

実施時期の検討を継続していきます。

問 令和3年9月議会の一般質問で「令和6年度からの実施を目指す」と答弁のあったファミリー・サポート・センター事業の進捗を伺います。

答 事業の安心安全のためさらに検討が必要と考えます。実施に向けては提供会員数など基盤の確保が必要となるため、実施時期の検討を継続して行っています。

この事業は「子ども・子育て支援法」で町の努力義務として定められ、厚生労働省からも町の実施に向けた通知が出されている事業です。

5年前の調査では令和6年の利用者は13名と予測されましたが、昨年の調査で利用希望者は88名と急増しています。スピード感をもって実施にあたっていただきたい。



ハラスメントの防止対策の具体的な方法は？

町 長

断続的な注意喚起を行い、未然防止の対策を講じています。

問 職場のハラスメント防止対策について前回も質問しましたが、その後の具体的な効果や、実態の把握、調査方法などについて伺います。

答 町長：年1回の「配置転換希望調査」の自由意見記入欄などにハラスメントが疑われる記入があった場合、本人や管理監督者などからヒアリングを行っています。
病院事業管理者：全職員を対象に職場アンケートを実施しており、その中にはハラスメントのことも入っているので、結果をふまえて対策について考えてまいります。

また、相談窓口のあり方について、実態の声が届いているかとの懸念もあり、その対策とハラスメントに対する判断基準もあわせて伺います。

職員の言動等について、パワハラなどの判断基準や面談の対応など相談窓口の充実を！



共生社会の推進を

町 長

社会全体で進めていく必要があります。

問 聴覚障がい者の五輪と呼ばれる「デフリンピック」が、2025年に日本で初めて開催されます。

そこで次の3点を伺います。

①障がい者がスポーツや芸術に取り組む環境や基盤整備について

②共生社会の構築のための啓発活動について

③応援事業（ホストタウン）への参加の考えは？

答 ①本年、周防大島町陸上競技場で開催された中四国・九州地区の視覚障がい者によるブラインドサッカー強化試合へ協力しました。
②職員研修を実施し、柳井圏域で手話奉仕員養成講座も毎年度開催しています。ホームページ等を活用した啓発に取り組んでまいります。
③様々な受入要件があるため、今後の課題になると考えています。

「デフリンピック」開催を機に、多様性のある社会、共生社会を作り上げる気運が高まってほしい。